

北小ものがたり

竜王北小学校
研究通信 &
学校だより



令和元年 12月 23日

2学期が無事終了いたしました

平成31年でスタートし令和元年で終わるという節目の年が、あと1週間程で終わって行きます。新しい時代の幕開けに相応しい華々しさもありましたが、自然災害の猛威などもあり、新しい時代に何をすべきか改めて考えさせられる年になったのではないかと思います。

学校としては、大きな行事が盛りだくさんだった2学期でした。子ども達それぞれが目標を設定して、全員が達成感を味わえたと信じています。学習面も生活面も確実に歩み続けている様子が見られました。これもひとえに、保護者の皆様のご理解・ご協力のおかげと、深く感謝いたします。明日からの冬休み、健康で安全で有意義なお休みにしてほしいと願います。良いお年をお迎えください。

今月の詩

「教室はまちがうところだ」が12月の詩でした。この詩が最初に世に出されたのが1960年代。静岡県で教員をやっていた、まきたしんじさんの作品です。教育関係者では、割と知られた詩でした。保護者の中にも、小中学校時代にこの詩を暗唱した方がいらっしゃるかもしれませんね。2000年代に入って絵本化されたために、より一層メジャーになりました。

学年が上がるにつれて、授業中の発言が減っていきます。間違えることが恐怖に感じてしまうからかもしれません。そんなときにこの詩が心を楽にしてくれます。

ちょっと長いですが、全文を紹介します（子ども達には2連までを紹介しました）。もし、全文暗唱できたお子さんがいましたら、冬休み明けに校長室に報告に来てほしいと思います。

教室はまちがうところだ

まきた・しんじ

教室は まちがうところだ
みんなとしどし 手をあげて
まちがった意見を 言おうじゃないか
まちがった答えを 言おうじゃないか

まちがうことを おそれちゃいけない
まちがったものを ワラっちゃいけない
まちがった意見を まちがった答えを
ああじゃないか こうじゃないかと
みんなで出しあい 言いあうなかで
ほんとのものを見つけていくのだ
そうしてみんなで 伸びていくのだ

いつも正しく まちがいのない
答えをしなくちゃならんと思って
そういうとこだと 思っているから
まちがうことが こわくてこわくて
手もあげないで 小さくなって
だまりこくって 時間がすぎる

しかたがないから 先生だけが
勝手にしゃべって 生徒はうわのそら
それじゃちっとも 伸びてはいけない

神様でさえ まちがう世の中
ましてこれから 人間になろうと
しているぼくらが まちがうたって
なにがおかしい あたりまえじゃないか

うつむき うつむき
そうっとあげた手 はじめてあげた手
先生がさした
ドキリと胸が 大きく鳴って
どっきどっきと 体が燃えて
立ったとたんに 忘れてしまった
なんだかぼそぼそ しゃべったけれども
なにを言ったか ちんぷんかんぷん
私はコトリと すわってしまった

体がすうっと すずしくなって
ああ言やあよかった こう言やあよかった
あとでいいこと うかんでくるのに

それでいいのだ いくどもいくども
おんなじことを くりかえすうちに
それからだんだん ドキリがやんで
言いたいことが 言えてくるのだ
はじめからうまいこと 言えるはずないんだ
はじめから答えが あたるはずないんだ

なんどもなんども 言ってるうちに
まちがううちに
言いたいことの 半分くらいは
どうやらどうやら 言えてくるのだ
そうしてたまには 答えもあたる

まちがいだらけの ぼくらの教室
おそれちゃいけない ワラっちゃいけない
安心して 手をあげろ
安心して まちがえや
まちがうたって ワラったり
ばかにしたり おこったり
そんなものは おりゃあせん

まちがうたって だれかがよ
なおしてくれるし 教えてくれる
困ったときには 先生が
ない知恵しぼって 教えるで
そんな教室 つくろうやあ

おまえへんだと 言われたって
あんたちがうと 言われたって
そう思う だからしょうがない
だれかがかりにも ワラったら
まちがうことが なぜわるい
まちがうてること わかればよ
人が言おうが 言うまいが
おらあ自分で あらためる
わからなけりゃあ そのかわり
だれが言おうと こづこうと
おらあ根性 まげねえだ

そんな教室 つくろうやあ